



春を感じる東城のまちなか

街道東城路での展示・3/6~4/4

No.5

例年、春の東城町で開催されている「東城まちなみ春まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から本年は中止となりましたが、地域の皆さんが協力し、街道東城路沿いの各所でひな人形などが飾られました。

また、三楽荘では「お婆女の手遊び作品展」が開催されました。この作品展には、庄原市周辺で活動している「手芸百般何でも造ってみよう」の皆さんの宝船や干支などの手芸作品が会場全体に飾られました。

街道近くの桜並木も見頃を迎え、訪れた人たちは東城のまちなみ散策を思い思いに楽しんでいました。



▲三楽荘で開催された作品展の様子

発達障害の理解に向けて

第3回「発達障害」を理解する講演会・3/12

No.7

西城自治振興センターで第3回「発達障害」を理解する講演会が開催され、19人が参加しました。今回は発達障害の理解と支援をテーマに、西城自治振興区の平井正澄事務局長が講演しました。

講演会では、講師の体験談などを交えた説明や参加者同士での意見の交換などが行われ、発達障害について理解を深めました。また、支援について、合理的配慮（一人一人の特徴や場面に応じて発生する障害や困難を取り除くための配慮）の重要性や日本での発達障害を抱えながら活躍している人の事例について話しました。

参加者は「体験談をもとに笑いも交えた説明で分かりやすかった。こういった機会を通じて発達障害について理解が進むことが大切だと感じた」と話しました。



▲説明会の様子

人権を身近に

口和健康づくり会 学習会・3/12

No.4

口和健康づくり会が主催する「第8回学習会」が口和保健福祉センターで開催され、19人が参加しました。同会は、健康づくりと元気づくりに関する事業を企画実施することで、地域の健康力の向上を図ることを目的に活動しています。

今回の学習会では、人権学習の一環として啓発映画を視聴しました。子どもと若者の人権をテーマとした映像作品「君が、いるから」の視聴を通じ、改めて人権を身近な問題として考える良い機会となりました。

参加者は「私たち一人一人が、人権を自分自身に関わる問題として捉え、気づき、考えて行動することが大切であると思いました」などの感想を話しました。



▲学習会の様子

熱い声援を届けます！

カーブ観戦チケット事前予約申込会・3/7

No.6

備北交通たび館庄原で「庄原市カーブ応援隊2021年シーズンチケット事前予約申込会」が開催されました。本年の申込会は、抽選番号ごとに時間を分けての受け付けや、アルコール消毒、検温を行うなど、新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらの開催となりました。

参加者の中には「取りたい席をメモして準備してきた。希望の席が取れてうれしい」「後ろの順番となって席が残っていないかと心配したが、何とか席を取ることができてよかった」と喜ぶ人もいました。

本年も庄原市カーブ応援隊は、カーブへ熱い声援を「バリバリバリ」届けます！



▲申込会の様子

元気に花開く

山野草の開花

No.1

総領町には、「春を告げる花」として知られている節分草をはじめ、「春植物」といわれる希少でかわいい山野草がたくさん自生しています。

本年は新型コロナウイルスの影響で、節分草に関するイベントは中止になり、自生地公開もできませんでしたが、町内ではたくさんの節分草が花を咲かせました。また、アースワーク河川公園の節分草自生地のそばには、「福を招く花」として親しまれている、黄金色の福寿草も開花しました。

節分草保存会の矢吹正直さんは「春を知らせてくれる節分草を楽しみにしている方がたくさんいる。来年は感染症が落ち着き、多くの方に訪れてもらいたい」と話しました。



▲春を知らせる「節分草」



▲福を招く花「福寿草」

地域の歴史を知ろう

シモタカフェ・3/12

No.3

下高自治振興区は、毎月1回、地域の人が気軽に集まり話ができる「シモタカフェ」を開催しています。

この日は20人が参加し、帝釈峡博物館展示施設「時悠館」の稲村秀介学芸員から高野町高暮地区の岩窟にある社「岩屋権現」の謎について聞きました。

参加者は、社の起源や、岩窟がたたら製鉄に使われた鉄鉱石の採掘跡の可能性があること、中国山地には「伊邪那美の隠れ穴（西城町）」に代表される岩窟が多数あることなどの説明を受けました。また参加者からは、現在は高暮ダム湖底に沈んでいる下高暮地域の過去の様子が話されました。今回の話で興味を持った参加者は、向田富美恵地域マネージャーの声掛けで、5月に岩屋権現を訪れることになりました。



▲参加者は「岩屋権現」について話を聞いた

手紙でつながる地域の絆

「比和地域の支えあいつくりのつどい」展示・3/16~28

No.2

比和町では、毎年3月に比和自治振興区・庄原市社会福祉協議会などが主体となり「比和地域の支えあいつくりのつどい」を開催しています。本年はコロナ禍の影響で地域の方が集まる行事は中止となりましたが、代わりに子どもと大人が手紙などでつながる世代間交流が実施されました。

比和保育所の園児からはヒマワリの種が、比和小・中学生からは「比和の自慢や好きなところ」の俳句や短歌、メッセージが地域の方に配布され、子どもたちには地域の方から募集したメッセージが送られました。

今回の交流で使われた手紙などは「コロナ禍でも地域が一つにつながっていることを実感できるように」と、比和自治振興センターに展示されました。



▲比和自治振興センターでの展示を楽しむ様子